

1 開会

(1)事務局からの冒頭説明

事務局

本日の会議は、お配りしている次第のとおり進め、会議の終了を20時頃と予定しております。

資料の確認ですが、次第の下の段に記載している配布資料、「資料1：委員名簿」「資料2：幸町地区総合整備検討有識者会議 設置要綱」「資料3：呉市立美術館あり方検討委員会開催報告資料」「資料4：第1回会議での意見・提案の要約とキーワード抽出」「資料5：第1回会議での意見・提案キーワード属性別整理表」をお配りしております。

それでは、始めに資料2の有識者会議の設置要綱について説明いたします。

設置要綱には座長の役割がございます。第3条4項に「座長は、会議を総理する」、総理というのは全体を統一して管理するということでございます。2番目に「会議を代表すること」、第4条には「会議を必要に応じて招集すること」、「会議に委員以外の者を出席させ、説明又は意見を求めること」、5番目として「会議を非公開にする判断を行うこと」というのが座長に与えられた権限となっております。

副座長は、第3条2項に定めておりますように、「座長を補佐し、座長に事故があるときはその職務を代理」していただくこととしています。

事務局といたしましては、第2条にある、この会議での協議する内容

- (1) 幸町地区全体のコンセプト
- (2) 幸町地区の各施設の在り方
- (3) その他、幸町地区の総合整備に関して必要な事項

について、座長を中心にご意見をいただくような形にしており、委員の皆様による協議を、座長および副座長に取りまとめて引っ張っていただくような役割というように考えております。

委員の皆様におかれましては、座長および副座長の役割についてご理解いただき、円滑な会議の進行にご協力いただければと思います。

事務局から、会議における座長・副座長の役割については以上となります。ご質問がありましたらお願いいたします。

水田委員

座長につきましては前回わたくしの方から発言致しまして、事務局におかれましては真摯にご対応いただきありがとうございます。

最終的な決定については、市の意向に従いたいと思いますが、多様な意見があるかと思しますので、座長の一存で決まるということがないように、また呉の地元の意見や意向を是非尊重して会が進むことを強く希望しております。

事務局

ありがとうございます。その他ご意見等ございませんでしょうか。

(他の委員から意見無し)

<p>事務局</p>	<p>それではその内容で今から進めさせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。</p> <p>これより議事に移りますが、議事の内容につきましては会議録を作成し、後日ホームページに掲載いたします。また、会議録には発言者名を記載いたしますが、ご了承くださいませようお願いいたします。</p> <p>ここからの議事進行は、田中座長をお願いいたします。</p>
<p>2 議事 議題(1) 呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告</p>	
<p>田中座長</p>	<p>よろしくをお願いいたします。座長を務めております田中です。</p> <p>本日も円滑な議事進行に努めてまいりたいと思いますので、皆様よろしくをお願いいたします。</p> <p>まず、資料の1ページ目をご覧くださいと思いますが、本日は3つの議題を予定しております。</p> <p>まず、7月10日に開催された「呉市立美術館あり方検討会」につきまして横山副座長よりご報告をお願いしたいと思います。</p> <p>その後、5月31日の第1回会議の意見を改めて振り返って頂きながら、幸町地区全体の整備のコンセプト、地区内の各施設のあり方につきまして、委員の皆様からご意見、ご提案を伺いながら検討したいと考えております。</p> <p>それでは、先日開催されました呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告を横山副座長をお願いいたします。</p>
<p>横山副座長</p>	<p>資料の3をご覧くださいませようをお願いいたします。</p> <p>呉市市立美術館の開館から40年を過ぎ、改築・新築等を早急に実施しなければいけない状態であるということは前回も申し上げた通りですが、幸町地区全体の総合整備の検討有識者会議をスタートしたこの時期に、この呉市立美術館あり方検討委員会は、公立美術館としての呉市立美術館のあり方、ミッションを再検討すること、つまり市民にとって必要な美術館とは何かを確定し、分かりやすい表現で表すということを目的として設立されました。</p> <p>去る7月10日に第1回委員会を開催いたしました。メンバーは資料3にも記載している6名になります。</p> <p>委員長は現呉市立美術館長の横山、副委員長は開館当時の学芸員であった京都国立近代美術館の福永館長に決定しております。</p> <p>基本的な会の考え方ですが、リニューアルの際にしっかりとしたコンセプトを固めておくことが必要である、それから単なる理想論ではなく呉市の現実を踏まえて現実的な案を作っていきたい。そして美術館の基本機能をベースにして機能を優先して考える。このあたりが基本的なスタンスになるかと思えます。</p> <p>資料3にも摘録を示しておりますが、公立美術館の役割がかなり変化してきているという現状があります。本来、公立美術館は博物館法で社会教育施設としての位置づけがあるのですが、本年4月に博物館法改正が施行され、社会教育施設だけでなく、さらに文化芸術基本法に基づくことが追加された施設であるという位置づけがなされています。つまり社会教育施設であるとともに文化</p>

横山副座長	<p>施設としての位置づけが明確になったということです。社会的ニーズということが背景にあります。</p> <p>美術館が開館当初に比べ、平成に入り、特に公立美術館一般ですが、学校教育との連携や高齢者福祉の観点が重視されている状況にあります。呉市立美術館は呉市が設置した公立美術館ですが、市内の大和ミュージアムであるとか、入船山記念館との役割分担を明確にする必要もある。また、蘭島閣美術館など呉市内にある他の美術館との役割分担も明確にしていく必要があるだろうという意見も出ています。</p> <p>これは、ご承知のように40年前はそういう議論もなく始まったという現実があります。この際、冒頭に申しましたように、呉市民にとってどのような美術館がよいのかというのをもう一度言葉で明確に表したいと思っております。</p> <p>開館当初と全く違うというのは、開館当初は収蔵作品がゼロだったわけですが、40年の間に1,300点以上の収蔵作品を所蔵している施設になっています。つまり、この収蔵品を後代に伝えていかなければなりませんので、そのあたりもしっかり考えていく必要があるということだと思います。</p> <p>いずれにしても、第1回が終わったばかりですし、いろんなものの頭出しができたくらいですが、適宜に何度か開催しながら、幸町地区全体の中において美術館の役割というのを今一度明確にしたいということで、この有識者会議にも情報提供しながら、良い方向にできたらと考えております。</p> <p>福永委員、何か付け加えることがありましたら、是非お願いします。</p>
福永委員	<p>横山副座長がおっしゃたことでほぼ尽くされていると思いますが、少し申し上げると、美術館のあり方が変わっているというところで、かつては美術愛好家を対象に美術館というのはあったのですが、社会の中での共通の文化施設としての役割というのが重視されて、学校教育だけでなく一般的に美術をどうみんなに楽しんでもらうかという命題が強くなってきているため、そういう意味では40年前にできた呉市立美術館当時とは、活動内容や目指すものが変わってきているということを議論しましたので、その点少し付け加えさせていただければと思います。</p>
横山副座長	<p>簡単でございますが、以上を7月10日の報告とさせていただきます。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。</p> <p>横山副座長から呉市立美術館あり方検討委員会のご報告を頂きましたが、委員の皆様からご意見・ご質問等がございましたらお願いしたいと思います。</p>
戸高委員	<p>現在の収蔵が1,300点あり、当初は美術愛好家が観に行くというようなところからスタートし、現在は違うということですが、収蔵品の傾向はどのような形で分けられているのか、どのくらいの数字なのかというのをお聞きしたい。</p>
横山副座長	<p>ここで正確な数字はすぐに申し上げられませんが、例えばルノワールやブルデルなど、景気の良かった頃に、かなり高額な美術品を買ったこともありますが、その数が多いわけではありません。</p>

横山副座長	<p>基本的には日本の近現代美術の作品を中心に所蔵しているということです。特色としては、1985年に現代陶芸の展覧会を開催し、それをきっかけに陶芸関係の作品が増えておりますし、さらに海が近いということもあり、海をテーマとした写真を集めているということが核になり、それも増えています。1,300点の中に含めていませんが、呉で言いますと、最近では、この史代さんの「この世界の片隅」の漫画の原画を預かっています。</p> <p>最近では、一昨年になります、地元の方からルオーですとか、梅原龍三郎などの作品が寄贈されています。</p> <p>現在は当然のことながら、収蔵の予算がありませんので、福永さんが（呉市立美術館の学芸員として）いらっしゃる頃に、いろんな日本の現代美術や近代美術などの作品を購入されていますが、それをいかに充実させていくかということで次の世代を考えながら収集しているという状況です。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。これは引き続き委員会の方で検討されていくということでしょうか。</p>
横山副座長	<p>はい。</p>
田中座長	<p>引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>

議題(2) 第1回会議における意見の共有
議題(3) – 1 幸町地区全体の整備コンセプトの検討

田中座長	<p>それでは次の議題に入りたいと思います。</p> <p>ただいまのご報告や、事前に委員の皆様にお配りしております第1回会議で出たご意見を基に、事務局の方でキーワード抽出した資料4、資料5を参考にさせていただきながら議題の2つ目・3つ目に入りたいと思います。</p> <p>この2つの議題は、この有識者会議に共通するところでもありますので並行して進めていきたいと考えております。</p> <p>本日は、幸町地区全体の整備コンセプトや、青山クラブ、桜松館、呉市立美術館、入船山記念館といった地区内の各施設のあり方について、ご意見・ご提案を伺い、コンセプトの検討に活かしていきたいと考えております。</p> <p>現在の幸町地区および周辺地区の状況、これまでの議論を踏まえて、お一人ずつ、まずは幸町地区全体の整備コンセプトについてご意見・ご提案を伺いたいと思います。</p> <p>これをある程度、今回の会議でまとめることができると考えておりますが、そのあたりはどうなるかなと考えております。</p> <p>簡単に申しますと、地区全体としてこういう場所にしたら良いのではないかとということをお話いただければと考えております。これを今回の整備コンセプトにつなげていきたいということでございます。</p> <p>その後続けて、青山クラブ、桜松館、呉市立美術館、入船山記念館それぞれの建物のあり方についてご意見をいただければと思っています。</p> <p>これについては、今回は頭出しとして意見交換を行い、次回以降さらに進めていければと考えております。</p>
------	--

田中座長	<p>資料4, 5をご覧頂きながら, まずコンセプト, 地区全体をこういう場所にしたらいいのではないかというようなご意見を, おひとりずつお伺いできればと思います。</p> <p>小野委員からお願いします。</p>
小野委員	<p>私の方からは, ずっと変わらないのですが, いろんなものを繋げる立地と歴史的な背景というのがあると思っています。繋げる, 繋がる場所だというのがすごく強くあり, 文化交流拠点というのが基本的なコンセプトであるべきだと考えています。</p> <p>観光という要素がないのは, おかしいのではないかという意見が, 文化拠点という言い方をすると指摘されることがありますが, 基本的に, 本当に良質な文化交流拠点というのは, 結果的に観光に繋がると私は考えています。</p> <p>そのため, 市民の暮らしと観光というものを, ちゃんと繋げる拠点であること, 歴史的な背景がしっかりある場所ですので, 過去というものと未来というものをちゃんと繋げるという意味を持つ場所であるということが, コンセプトであってほしいと考えています。</p> <p>これが, 今までの自分が関わってきました入船山の秋祭りというイベントで実施してきたこと, また, そこで見た市民の活動や市民の感覚というものと, 前回の会議でいろんな方からの意見を拝見し, 改めてそうであってほしいと考えているコンセプトとなります。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。続きまして, 加茂委員お願いいたします。</p>
加茂委員	<p>私からは, 具体的にどういうふうな活用というのは知見がありませんので, 雰囲気ということについて述べさせて頂きたいと思います。</p> <p>基本的には呉線から南の土地というのは海軍用地でありまして, 戦後70年, 80年経った今も, 呉線の眼鏡橋を超えた南側というのは, 北側の市街地の区画とは違う雰囲気があるのかなと思っています。現在も桜松館の前には呉教育隊もごございますし, すぐ近くには総監部もありますし, 昔, 練兵場といわれていた土地については, 昔は大和を造ったドックの土を掘り下げて整備したというようなところもあります。</p> <p>その土地の持っていた記憶というものの雰囲気を大事にしていきたいなというのが, その近くで働いている者の意見です。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。続きまして, 河崎委員お願いします。</p>
河崎委員	<p>私も皆さんと一緒にですが, まずは市民が集う場ですね。市民が活躍できる場, 民間の視点からですが, お金を生む場となってほしいと思っております。</p> <p>市民が活躍する場というところですが, もともと工業などがある街なので, 例えば高齢の方でも技術を持ちながら持て余している部分があるというのが多いので, 多世代を超えた人が集まる場所になってほしいと思っております。</p> <p>それと, ユースセンター, 中高生が放課後に学校を越えて集まる場所が欲しいのですが, その場所が, 社会で活躍されている先輩方に会えて, 子供たちがそれを見て将来の選択肢が広がるような場所になって欲しいと思っています。</p>

河崎委員	<p>また、活躍できる場になりますが、中央地区の集まりに行くと、広町、焼山町や島しょ部の方だと離れた感じがしますが、すごく面白い方が多いです。</p> <p>そういった方々や観光地、例えば野呂山や御手洗などの観光地や面白い人もいるので、そういったことを紹介できる場として、青山クラブを使うことができればいいのかなど。ハブ的な役割ができればいいなと思っております。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。続きまして、下倉委員お願いします。</p>
下倉委員	<p>この間、岡委員も関わっている、しおまち商店街の視察に行きました。その際、商店街のスローガンが「住みたい街、しおまち。レモンとアートと人情と」と聞きました。町のいろんなものがレモンカラーであったり、ちゃんとしたコンセプトをキーに、まちづくりをしているというのがすごく重要なのだと痛感しました。</p> <p>今度、北海道の東川町に行ってみようと思っています。そこも小学校の廃校を利用して地域センターにしていたり、新しく新築のセンターも作ったりと色々としているのですが、そこは写真の町で、写真をすごく推しており、写真甲子園などの大会をしています。文化によるまちづくりで、文化の大きな一つが写真だということでもまちづくりをしており、結構成功している例と言えると思いますが、何かキーとなるものがすごく大事だと思っています。</p> <p>呉のことを、ひとことで私なりに表すなら、「海の平和とものづくりの町」というネーミングがつくのかなと思いますが、海の平和というと皆さんわかんと思います。まちづくり・ものづくりというのは、軍隊機能がいらなくなった、戦争が終わってGHQも撤退してというときに、国の支援も受けつつ私たちは重工業やその他の小さな町工場ですとかいっぱいあると思いますが、例えば広町よりももっと向こうの方に竹チップを作っている方がいたり、有名どころでは万年筆ですよ。</p> <p>先ほど、美術館をこれからどうしていくかという検討会の報告がありました。やはり美術を展示するだけの機能ではなくなっています。そこに行って何か作るということ。美術品の展示も作るための参考になるような美術品があって、では作ってみましょうか、というものづくりをしていくような場所になったらいいかなと大きくは思っています。</p> <p>あと、例えばとびしま海道は、サイクリングの出発点になるので、少し休む場所だとか、宿泊もして呉を体験してもらおう場所であったりとか、サイクリング者のための結節点になります。他へ行くために絶対に通過する場所であったりとか、大和ミュージアムと呉の町を結ぶ最初の地点として、大和ミュージアム、幸町地区へ行ってもらってレンガ通りなどへ行ってもらって、大きく回遊性を生み出すという、大きなキーとなるエリアになれば良いと思っています。</p>
田中座長	<p>ありがとうございます。続きまして、戸高委員お願いします。</p>
戸高委員	<p>場所的に良い場所だと思います。呉の文化サークルの中心みたいなカルチャースクールみたいなものが常設されていて、年齢性別関わらず、お年寄りから小学生まで集まれるようなテーマの場所があり、そこを中心としてその人たちに情報を共有する場として美術館があったりとか、そういう形を全体としてつ</p>

戸高委員

くれると、純粹に美術館・博物館となると、極端に言うと見に行く・学ぶという感じがありますが、そうではなくこの地域では自分たちが直接介入したり体験するといったことができる場が常にあれば、常に人が流れて動いて、そこでこの周辺のいろんな文化に関する情報が手に入るというような施設があると良いと思います。

しかし、頭の中で考えるとスペースがたくさんいるとか、人もたくさんいるなど大変なこともあります。大変そうだからやめるということであれば、こういう話は無いので、大変そうだけど頑張りましょうと考えて、積極的に、そして歴史のある地域なので歴史を伝えるという重要なものもありますが、歴史と将来・未来、どちらに比重を少し大きくするかという歴史も大切ですが、最終的にはこれからの若い人の未来、将来の明るい展望を考えられるような流れを持ちたいですね。

歴史は本当に重要ですが、それは知識として必要です。そして未来を考える際の情報として必要ですが、歴史そのものより、将来の方をやや重く見ていかなければいけないので、全体としてそういうコンセプトの地域になっていくといいと思います。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、松野委員お願いします。

松野委員

先ほどおっしゃっていただいたように、交通の便で場所的には非常に良いと思っています。まずそこに来てもらって、そこからいろんなところに飛ぶという形での発展のさせ方を考えても良いのではないかと考えています。

そこだけに立ち止まっていたら、いろんな文化・美術を見ていただく、経験していただくということもできますし、そこからいろんな地区に飛んでいく、そういったことができるいろんなところも関連付けて発展していくのではないかなと。JRも近いですし、船（港）からも近いということは、活かしていかなきゃいけないだろうと。

あとは、地域として、歴史を教える。私は呉にずっと住んでいたのですが、館長がいらっしゃる中でなかなか言いづらいですが、入船山記念館というのは一体何なのだろうというのが、呉高专で働くようになってから詳しくなりましたが、それまで何か知っていたかといわれるとピンとこないところがあります。そういった呉の歴史、地域の歴史を教える場所というのがどこかにあってもいいだろうと。歴史を踏まえて将来どうするかというのを子どもたちに考えていただけたらいいところを持っていく点を、コンセプトに入れていただくのがよろしいのではないかと考えています。

あともう一点、市民広場というのはサッカー場になるのですよね。

事務局

陸上競技場です。

松野委員

そことも何か関連付けていけないのかなと思ひまして、その場合だと駐車場があるのかなどいろんなことを考えましたが、そういった交通面のところと文化・歴史のところとまとめていくのが良いのかなと考えております。

田中座長	ありがとうございます。続きまして、水田委員お願いします。
水田委員	先ほど美術館あり方検討委員会の報告を聞きながら、美術館のあり方が社会教育施設から文化施設に変わるというところで、なるほどと思い、確かに昨今できている美術館も、カフェとかショップとかそういったものがものすごく充実しているなと思っています。そういったところもコンセプトの変化を表しているのだと思った次第です。
横山副座長	社会教育施設からではなく、社会教育施設プラス文化施設からです。
水田委員	<p>そして、そういったところというのが、建築的な話になりますが、空間的なポイントになっているというか、すごく目玉がリノベーションであればかなりそこに力点を置いた設計になっているというのが、例えば京都市美術館とかでもそうだと思いますが、そういうふうになっているなと感じた次第です。</p> <p>しかもそれを今、幸町地区で考えたらどうなのかと。今の幸町地区には例えば入船山記念館を訪問して、そのあと少し休憩する場所、立ち寄る場所が、今、幸町地区にはあまり目立った場所がないというところで、その辺とこれから美術館に求められる新しい機能を関連付けて考えられないのかなと思いました。</p> <p>地区全体の在り方ということとは少しずれるかもしれませんが、そのように思いました。</p> <p>もうひとつ、地区全体については前回申し上げたようにあの場所というのは歴史が重層的に重なった場所になりますので、もともと神社があった場所、それから長官官舎があった場所、さらに青山クラブがあった、さらにこれから先、新しい機能を追加するという歴史の重層性というものが大きなコンセプトになるのではないかと考えています。</p>
田中座長	ありがとうございます。それではオンラインの福永委員お願いします。
福永委員	<p>前回は所用があり、委員会に参加できなかったのですが、前回の委員の方の意見を拝見している中で強く思ったことがあります。観光施設というのはひとつの目的になるのでしょうかけれども、私はやはり、市民の方に親しんでいただく施設というのが一番ポイントになるなと思っています。美術館の現状で言いますと、コロナ渦で人がいなくなった、海外からも人が来なくなって軒並み美術館の入場者が減ったのですね。そういう観光頼みの危険性を目の当たりにすると、やはり地域に親しんでいただくというか、地域の皆さんに支えていただく文化施設であることが、基本ではないか、プラスアルファの観光という感じではないかなと思っています。</p> <p>それから、私も美術館のあり方検討会に参加していますが、現実的な施設を作っていくと難しいところ、美術館にあれもこれもというのはおそらく難しいと思います。</p> <p>何を優先して何を捨てていくかという点で、幸町地区の他の施設に担っていただくというようなことが求められるのだらうと思います。</p> <p>先ほど下倉委員が、美術館は見るだけでなく作る場所でもとおっしゃったのですが、例えば作る場というものを美術館の中に求めようと思うと、そのた</p>

福永委員

めのしつらえや人員が必要になります。今の美術館では鑑賞教育というのがいちばん基本になっていますので、例えば作るとかは、この幸町の他の施設の中に実技アトリエなどができると、カバーできるのではないかと思います。美術館だけではなく、目的を明確にして、整備していくことが必要だと思います。

田中座長

ありがとうございます。それでは同じくオンラインの岡委員お願いします。

岡委員

先ほど、戸高委員のお話の中でキーワードとして出ていたところで、前回会議での私の発言と重複するのですが、一つはやはり未来を見据えること、未来の市民を見据えることというのは、第一に置くべきなのではないかと思っています。未来の市民を想定したとき、その市民が自分の地元呉という場所がどういふ場所でそれを何に誇りを持っていて、こんな場所があると言える場所で、遠足とか家族の行事で1回行ったとかではなく、日常的に自分がその一部だと思えるような自分の人生の大事な場面というのをたくさん思い出されるような場所を作り切れるくらい広い敷地だと思っています。また、美術館と青山クラブ、博物館と歴史記念館といろいろな多機能な施設になっているので、そういった場が作れると良いと思っておりました。

未来を見据えることと同時に、過去に目をつぶったり、隠したり、薄めたりということをしてしまうのは、過去への敬意という観点からも、呉市の良い面も悪い面も歴史としてしっかりと未来へ紡いでいくという観点からも、この施設としてはやるべきではないと思います。未来も過去も大事にしないといけないと思います。

戦争と平和というトピックやものづくりという観点をとっても、海の文化というものをとっても、美術という観点でも、どこをとってもすごく深い道だと思っています。ここの回遊性・周遊性というのを上手く活かして、浅く広く万人が参加できる側面と、施設のどんどん奥深くに行ったときに戦争と平和という議論も恐らく誰かが一生涯研究を尽くしても終着することはない深いテーマであったり、美術というのをひとつとっても深いテーマなので、どんどん深く施設の奥に行くとその道をどんどん深く掘って行って楽しむことができるような施設の構成というのがこの敷地内にあれば良いのかなと思っています。

そのため、どちらかという未来を見据えて、未来の市民たちがあの場所でたくさん遊んだ思い出や、食事をした思い出があるという部分は、おそらく表側であったり浅く広くという部分でたくさん市民との接点を作るのですが、美術、戦争と平和とかそれぞれの道のテーマの深い部分というのを施設の奥の方により深く情報を研究しようと思えば、そこに行けるような施設構成になっていると、それぞれの道に興味を持った世界中の人たちがそれぞれの聖地のようにここを認識してくれるでしょうし、同時に入り口の浅く広くという部分には、市民が関わる施設というのもたくさん取り入れて行って、未来と過去、浅く、深くという両側面の方向性がつくっていけるのかなと思いました。

その道が何種類あってどういうキーワードを立てるのかまではまだ正直全然考えられていないですが、施設運営者側としては、浅くと深くをどちらかにするのではなくて、土地が広いので両方押さえていくというような考え方がまず今浮かんでいます。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、横山副座長お願いいたします。

横山副座長

皆さんおっしゃることが全部もっともですが、基本的なスタンスとしては、やはり市民が多く集まれるような間口の広い場所であるかなと思います。

それは今、岡委員がおっしゃったように、いろんなアプローチがあるとは思いますが、例えば少し年配の50代から60代くらいの人の中には、青山クラブで子供の時に泊まった経験がある方や、桜松館にコンサートを聴きに行った経験がある方がいらっしゃるわけです。

ですから、かつては市民が集う場所であったのではないかということ、改めて感じています。実は昨年、「呉の美術」という展覧会で、呉の近代史を振り返っていく初めての試みがあり、オープンの日には美術館の前庭で自衛隊の屋外コンサートを行いました。年配のおじいちゃん・おばあちゃんたちが、しきりにスマホで写真を撮るくらい集まりました。あるいは入船山秋祭りを開催しても、1万人が集まるような、そういったポテンシャルを持った場所だということ、もう一回甦らせるというような感覚が必要なのだと思いました。

下倉委員への答えではないですが、展覧会ごとにやるワークショップなどでは、親子でやると結構人気です。

ただ、先ほど福永委員がおっしゃったように、現状のスペースやスタッフでは限りがあるので、例えば、いつ誰が行ってもできるとなると、アトリエを作るなど、当然全体の中では考えなくちゃいけない。

もうひとつは、これも前にお話したかもしれませんが、4年前に呉に来て最初に行ったのは、美術館のアプローチのところにテーブルとイスを出すということでした。

それまでは、美術館通りのベンチには、ほとんど誰も座っていない。ところが一歩中に入ると最初の数日でそれが使われるようになったわけです。お庭を見ながらおばあちゃんたちがお話をしたり、そういうことが今までやっていなかっただけで、これからいろいろできるのではないかと感じたところがあります。それこそ河崎委員が、子供時代に人が集まっていたような場所をもう一回甦らせる。

ただ、その時のやり方としては前回も言いましたが、あまり縦割りで考えるのではなく、総合的に考えるのが必要なのかなという気がしています。

ですから、市民が基本的に集まってきてというところが、皆さん共通なのではないかと思います。

もうひとつは歴史ですね。ただ、歴史は入船山記念館のようにそのものを残そうというところもあるし、歴史に深く関わるという美術館もありますが、ただ単に歴史を残すということでは当然無いわけなので、次の世代へのためのことをやっているつもりなので、広く言えば観光も含めるかもしれません。歴史と文化と市民というようなことでまとめられるのではないかなという気がしているのですがいかがでしょうか。

つまり商業施設ではないですね。ビジネスの場所でもないし、その辺ちょっと基本的な考えがまとめればよいような気がするのですがいかがでしょうか。

<p>田中座長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>これでひと通り、一周目として、皆さんの話を伺えたと思います。少し皆さんのお話を伺い、私が思ったことをお話しさせていただけたらと思います。</p> <p>小野委員から、「つなぐ・つなげる」というお話の「つなぐ」という言葉で、ある程度皆さんの思いを表現することができるのかなと思いました。</p> <p>空間的な意味で「つなぐ」ということでは、結節点というお話もありましたが、いろんな場所をつなぐ場所になり得る、スタート地点にもなり得る場所でもあるということで、呉という町の中での空間的な意味を考えると、つなぐ役割を果たすべき場所ではないかというお話があったと思います。</p> <p>もうひとつは、多くの委員の方がご指摘いただいた「市民」という視点。市民の皆さんがつながる場所、市民の皆さんが活躍したり稼いだりするような場所など、市民の方が使う場所というところがあるのかと。その方が、市民の方と市民の方がつながる側面があるということをおもいました。</p> <p>3つ目が歴史です。多くの委員の方にいただきましたが、過去の歴史と、今の生活をしている皆さんをつなぐという側面、未来と今の人をつなぐというところがあり、時間的な意味でのつなぐというところがあると思いました。</p> <p>最後に4つ目が、文化と人、文化・芸術と人をつなぐということをおもいました。そのあたりに皆さんの思いがあるのかなと思いました。その中で少し機能的なところもお話しただけたかなと思っています。</p> <p>カフェやショップみたいなお話もありましたし、文化・芸術を体験する場など、そういったところがあった方がいいのではないかというお話もいただきました。また、浅く広くというところと狭く深くなど、そういったところを上手く配置していく。せっかく広い場所なので、それらを上手く配置して両方を提供できるような場所にしていくというような、機能的な話も少しいただけたかと思っています。</p>
--------------------	--

議題(3)－2 各施設の在り方検討

<p>田中座長</p>	<p>続きまして、2周目にまいりたいと思っています。</p> <p>続いては、青山クラブ・桜松館・呉市立美術館・呉市入船山記念館、それぞれの場所のあり方、建物、場所のあり方についてご意見をいただければと思っています。ただ、ひと通り皆さんのお話を伺う中で、地区全体の話として言い忘れたこともありましたら、そちらもご発言いただけたらと思います。</p> <p style="text-align: center;">(岡委員 退席)</p>
<p>田中座長</p>	<p>それでは先ほどと同じ順番で小野委員からお願いできたらと思います。よろしく願いいたします。</p>
<p>小野委員</p>	<p>先ほど伺ったところから、また思い出した部分などの補足を先にしたいのですが、私が申し上げた文化交流拠点のイメージは、戸高委員がおっしゃっていたカルチャーサークルのようなところなのかなと思いました。</p> <p>現状でいうと、市役所の近くにつばき会館があります。私が、仕事の関係や市民活動団体、ボランティア団体を訪問することが多く、あそこは本当に土日</p>

小野委員

も平日も皆さんよく使われています。和室もあつたりすることもあり、例えば子育て関係のサークルの方もいつも利用していたり、訪問すると本当に全ての部屋が土日を中心に埋まっており、ホッとします。皆さん、こうやって趣味や自分たちのやりたい活動を、こんなに頑張っているのだと思います。200人くらい収容の小さなホールもあります。

ただ、耐用年数などを調べていないのですが、古いと思います。おそらく、あそこもどこかのタイミングで再整備とかになってくると思いますが、今のつばき会館も多分足りていないと思います。例えば、ゆくゆく、もしつばき会館も再検討に入ってくるとするならば、そのような機能が青山クラブなど、幸町全体のどこかに整備することで、幸町地区は、いわゆる高校や文教エリアと言ってもよいエリアになると思います。学校も近い場所にあり、そこにご高齢の方や市民活動をしている方も行くというのは、特に文化ゾーンですね。

市民活動といってもいろいろありますが、文化的な活動をされている方の発表の場の少なさというのは非常に今、呉市内を見渡した時にあると思います。

最近、お茶会といえますか、毎月開かれている、誰でも来ていいよという茶道の場に行ってみたのですが、これを毎月いろんな流派の方が代わる代わるやっているという文化が、この町であるのはすごいことだなと思いました。

和菓子屋さんがこんなに多いのも、お花屋さんがなぜか多いのも、もしかしたらこういう文化的な背景がちゃんとあるから、茶道とか華道というものが生きているから、この町にはちゃんとあるのかなというのを体験させていただいて、もっと露出してもいいのではないかと思います。

いろんな人に見える場所にそれがあることで、多分知っている子供は知っていると思うのですけれども、子供たちにももっと見える場所に、こんなに文化が広がっている町だということが分かった方がいいなと、これから考えた時に思いました。

そういうものが、今のつばき会館の立地など、いろんな場所を借りてやっていらっしゃる人たちが、幸町という、いろんな方から見える場所にあり、本当に立地としては電車に乗っていると車内から見え、車に乗っていても、通学途中の学生からも見える場所にありますよね。

いろんな人がカルチャーを楽しんでいるということ、実は文化的なのに文化的なことが外に出ていないだけなのではないかと思っていて、そういうものがひらけた場所にあるということが、すごく価値になっていくのではないかと改めて思いました。

例えば、自分で住むところを選ぶわけではない高校生くらいまでの子供たちというのが、その町で何を感じられるか、何を体験できるかで、町の質が変わってくると思っています。そのため、高校生までくらいの子供たちが何を学べるのか、何を感じられるのかということ念頭に置けば、高齢の方も楽しめる場所は絶対にできると思います。ですので、そういう拠点であるというのが改めてこの場所の持つ価値であると思いました。

それぞれの建物についてですが、岡委員が前回からおっしゃっていたところとも関係すると思いますが、いろんな人が入れる場所とそうではない場所というのがすごく面白いと思っています。この場所、この幸町が持っている建物の性質を考えた時に、もともとの機能を考えれば、それがそのまま当てはまると思っています。つまり、青山クラブというのは、下士官の集会所で、しかも

小野委員

市民が使える売店があったといわれているわけです。

海上自衛隊の方が持っていた時代、あそこのボーリング場で遊んだとか食堂で遊んだという記憶があるわけです。ただ、長官官舎に至っては、行ける人しか行けないわけです。市民は絶対に行かなかったと思います。

そういった機能やその長官官舎、特に文化財にもなっている場所というものを本当にある意味、奥行きのある、価値のある場所として、そこにはなかなか立ち入れないけれども、大きな価値があるのだということが認識できる場所として、青山クラブは立地的にも入り口になると思います。

そういった開かれた場所に入りやすい、踏み入れやすい場所になった上で、長官官舎を知っていくということが、歴史的な活用をされ、今までの活用のされ方を踏まえても、そのまま通用するのではないかと考えています。

現状の建物を、例えば、美術館がある場所を美術館のまま使うかどうかも含めて、幸町地区の再整備計画であると思うのですが、私が現在思っているのは、例えば美術館は、現状では狭すぎると考えた時に、美術館と桜松館を一体として考えて、芸術文化拠点にするというのが私の中ではしっくりきています。

なぜかという、そもそも（全国的に多くの）美術館にはホールの機能があると思います。今の呉市立美術館は、地下の会議室しかおそらくないと思います。（例えば）100人規模の希望者がいても、講演会がおそらくできない、そういう現状を聞いたこともあります。

その中で、桜松館はホールを持っており、音楽イベントも、改修すればできると思います。音楽と芸術が一緒に入る場所が、美術館と桜松館を合わせると可能なのではないかと考えます。

先ほど言ったように、長官官舎・入船山記念館のエリアというのは、そのものが今現在は残されているということで、持っている価値を活かせる奥行きある場所であると思います。

青山クラブに関しては、幸町全体としては文化交流拠点なのですが、文化交流というものをテーマにした状態で、一部を商業利用、例えばカフェもビジネスなわけですね。

そういったものは、コンセプトが先にあり、それに即したものが設置されるということであれば、例えば、宿の機能や飲食の機能というものは、もちろんそこに入るべきではないかと思っています。そのため、ある意味、青山集会所というものがあつた時の状態に機能を戻していくような、今から必要なものに更新していくような考え方に、それぞれの建物がなり得るのではないかと考えています。

プラスで言うと、検討はこれからだと思いますが、旧練兵場（市民広場）のグラウンドも陸上競技場になる可能性があるという話が出ています。旧練兵場も含めて、文化スポーツの拠点ということは、ユース世代、高校生までの子供たちも、高齢者の方たちも集える拠点になり得ると全体で考えています。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、加茂委員お願いいたします。

加茂委員

個々の使い方について、私は知見がございませんので、皆さんの話を聞いて思ったことを述べさせていただきます。

私は全国転勤していて、旧軍港と言われるところはみんな行ったのですが、

加茂委員

旧軍港の都市というのは非常に大きくて、戦前に合併の圧力が働いていて、非常に広い敷地を持っているところがありました。横須賀にしても佐世保にしても舞鶴にしても非常に大きな敷地を持っていて、どこが市の中心なのかというのがわからないところが多くあります。

呉市の場合は、特に戦後の合併もあり、呉の中心（中央地区）や、広地区、島しょ部もあり、いろんな中心があってそれぞれに特色があります。

皆さんのお話を聞いていても、市民が使えるような施設と言いますが、本当に呉市の方が日常的に使えるような施設なのかというと、なかなかそれを作るというのは難しいのかなという気がいたします。

そういった中で、新原市長もシビックプライドと言っていました、普段行かないかもしれないけれども、自分たちの住む町には、呉市にはこれがあるというような施設、市ならではのところがなくて、土地の記憶を活かしていくことが必要だと思います。呉市民が自分の市にはこういった町があること、施設があるということを感じるような施設が作られれば良いと思っています。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、河崎委員お願いいたします。

河崎委員

陸上競技場の話が出たので、まだ決まってはいないのでしょうけれども、陸上競技場が出来るのであれば、本当に文化とスポーツの場所になって欲しいし、アーバンスポーツも是非取り入れてもらいたいと思います。

スポーツされている方もみんなそうですが、活躍できる場を見てもらえると、モチベーションが高くなりますし、それによって次世代も育ってくるので、そういった魅せる場として全体を作ってほしいと思います。

美術館については、美術館のあり方というのは40年前と変わっていますが、僕としては地域性の高いものを作ってほしいと思っています。今回の宇宙をテーマとしたものも面白いと思います。

横須賀美術館がスカジャン展をされていたのですが、すごくよかったです。スカジャンを着てどぶ板通りを歩くとサービスが貰える。これも地域連携で良いと思っています、スカジャンは、なかなか今着にくいのですが、スカジャン展をやってどぶ板通りを堂々と歩ける環境や、仕組みを作るとするのがすごく良いと思っています、それが文化ですよね。

呉だと、ヤスリや筆など産業がいろいろあるのですが、そういったものも掘り下げて紹介してもらいたい。それを例えば、美術館で販売しても良いし、ワークショップを青山クラブで開催したり、筆を販売したりなど、そういった連携ができる町になってもらえればと思います。

青山クラブについては、町のコンシェルジュと言うか、地域と連携する場所になって欲しいと思います。「この世界の片隅に」の資料があるということなので、私は、すずさんの家の一分の一をそのままそこに作ってほしいです。すずさんの家は長ノ木町にあります、そこで一分の一を体感すると、すずさんの家はどこだったのか、すずさんが見た景色というのはどうだったのかということが見たくなると思うので、そういった連携をやってもらいたいです。

呉の魅力というのを、そこからチラッと見せて、例えばツアーを組んだりタクシーで行けたりなどの仕組みや、街歩きの拠点もできてほしいと思います。

桜松館については、呉は文化度がすごく高いと思っており、音楽会やバレエ

河崎委員

などを文化ホールで開催していますが、興味がある方しか行っていません。
その一步手前の興味がない方でも見られる場所を、桜松館でやってもらいたいなど。

呉音楽隊があつた場所には、音が漏れていて、見えていたのですね。
そのことにより、この町には素晴らしい音楽隊がいることを子供たちも見ます。文化ホールの一步手前の場所のような、ダンスも音楽も、この場所は本当に音楽の聖地ですので、毎週末、音楽などが聴こえる場所になってほしいと思っています。

先ほど小野委員も言われていた華道・茶道も、例えば呉の秋の文化祭が体育館で開催されているのですが、結構、関係者の方が多いのだと思います。人が集う場所で開催してもらうことにより、次の世代を育てることができるのではないかと。特に茶道については、入船山記念館、ここは重層的な歴史があるところなので、呉の海軍の一番偉かった方が住まれているところでお茶会だとか、そういった付加価値というものを付けて、そこでお茶を嗜むという方も楽しめるというか、満足できるようなものができるのではないかなと考えています。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、下倉委員お願いいたします。

下倉委員

皆さんのこれまでの話を聞き、呉の文化ってやっぱりすごいと改めて感じ、私も移り住んで、例えば着物の染み抜きができるところが何軒もあつたり、花屋が多いと思いました。幸町地区は、文化が育っているところを大切にすべきと思いました。

今の美術館を壊すか、そのまま建物として残すのかという問題が発生するのと思っています。最初は私としては、実はここは建物が密集しているので、青山クラブと桜松館と美術館と、全然隙間が無く、壊したいとは思っていましたが、ただこのご時世ですので、スクラップアンドビルドはやめて、ストックを活用しようという時代に入っており、美術品が入らないから捨てるということは難しいかなと。

さらに、グラウンドがあり、そこの前に、練兵場だったところ（市民広場）から美術館を見ると、山が見えて、「日本の道100選」に選ばれている（美術館通りの）緑、並木が見えて、美術館がちょうど赤くてアイキャッチになっています。それだけ建物として存在しているという景色は良いと思っています。ただ、収蔵庫が別にあるとか、結構ナンセンスだと思うのです。

青山クラブの床面積が非常に広く、全部のスペースにいろんな機能を入れてお金を回収できる気もしないとした時に、美術館機能が青山クラブに移設できるのであれば、設備的なことはわからないので検討の必要はありますが、収蔵庫も含め展示も含め全部移設できるのであれば移設という案もあるのかなと思います。

今の呉市立美術館は、つばき会館のようなサークル活動などで使ったり、あとは市民のための施設を作るとして、子育てとか高齢者がターゲットになるのですけれども、ティーンエイジャーがやはりこぼれがちです。

今、ティーンエイジャーのための空間を作ってあげようというのが、全国的に広がっており、例えば音楽スタジオやダンスホール・ダンススタジオ、ボル

下倉委員

ダリングなどがあります。ボルタリングは、高さがどうしても必要なもので、今の美術館の高さと広さは有効活用できるものを入れるというのもあるのかなと思っています。

青山クラブは、今までの宿泊に使われてきた歴史とかも伝えたいので、宿泊機能を入れたりなど他の機能ももちろんありますが、用途を転用しながらどうかして空間の開放性は建築的に、1階部分をピロティにするなり何か考えないといけないのと思っています。

また、(市民広場の)グラウンドでスポーツをするということで、グラウンドから使える一番近い施設が美術館です。あとは美術館別館のカフェもありますが、スポーツした前後に使える施設を、今の美術館の中に入れていく。休憩や着替えなどができる機能があると良いと思いました。

事例で良いと思ったのが、東京都の豊島区です。あそこは演劇の街としてPRしており、消滅する唯一の東京23区の街ということで衝撃を受け、すごく頑張ったのですけれども、演劇について着替える場所や、あとはダイバーシティ、オールジェンダーが使えるようなトイレなど、そういうところを相当頑張っていたので、スポーツするグラウンドとの関係性というのも、今の美術館が担っていけるのかなと思いました。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、戸高委員お願いいたします。

戸高委員

あそこはやっぱり場所が良いのと、何に使うかと言うと、先ほどお話がありました、一歩手前というのは、本当に一番大切に物事の入り口ですから、ゆるいサロンになってもらい、いろんな人が来て、そこでいろんな文化の入り口を提供する。

例えば、先ほどからお話にある茶道にしても、本当にただ飲んでお菓子を食べて楽しむだけだということと接点があり、それからちゃんとしたところでちょっと一回勉強してみる。音楽の方も本当に初歩的なものから入る。それから先ほどお話があったように、美術館は鑑賞教育の方がいいですね。そこで例えば絵画教室をやろうというのは、それは実際上難しいという話は本当にその通りだと思います。

そういったものの入り口をたくさん並べて、それぞれ自分に向いたところを探し、そこでもう一歩先に進んでいける、いろんなものの一歩手前の入り口をたくさん提供できる場であるといろんな文化がそれぞれ発展するし、それまで知らなかったことをそこでいろんな面を知り、こんなものもあるのかというのを提供できれば、多くの人が自分の中でもっと自分にフィットしたものをたくさん知ることができると思います。

そういう場を、具体的にどんな形でどうやるというところまで、まだ当然いってないですが、形としてあの場所というのは、呉の文化サークルのようところになっていくのが一番良いと思っています。

田中委員

ありがとうございます。続きまして、松野委員お願いいたします。

松野委員

今あるものを全部壊して新しいものを作る方が、もしかしたら簡単なのかもしれないなと思いつながら話を聞いていましたが、当然そんなことは現実的な話

松野委員

ではないので、例えば、先ほどから皆さんがおっしゃっている、シーンや歴史、未来ということも含め、入船山記念館を中心に、美術館と一緒に教育も含めたところを担当していく。

美術館と桜松館をうまく文化の発表の場や演劇、音楽も含めた発表の場などにして、文化の拠点として美術館と桜松館を見ていく。そして、市民が集まれる場所を青山クラブに担ってもらおうというのが恐らく一番落ち着くのかなと思ひながら、皆さんのお話を聞かせていただいています。

例えば、青山クラブをあのまま全部使えるのかということ、なかなか難しいところもあり、個人的にはあそこに交通のターミナルのような結節点が必要だと思います。さすがに青山クラブがあのままそこに残っていると、作るのも難しいと思ひながら、どうするのか、なかなか今すぐに考えるのは難しいです。

前回も言わせていただいたのですが、建物としての青山クラブは思った以上に健全ではありますが、中の天井が低いというのがやはり多くの人が集まるにはちょっと向かないところも多々あるかと思ひ、全部そのままの状態を使うというのは難しいだろうと。それで何か別のコンセプトを入れながら、部分的に残すのか、全部残すのか今後も議論があるかと思ひますが、中身を大きく変えないと、人が集まるのも今の状況では難しいだろうと考えています。

大きなお金を入れて耐震補強をしたとしても、どれくらい健全なのか、見た目ではわからないところもありますので、地面の下も含めたお話をしっかりしてもらい、例えば、耐震補強をすれば50年は大丈夫だということであれば、当然お金をかける意味も出てきますが、ちょっとお金をかけたくらいでは15年、20年しか持ちませんよという話では、部分保存や外壁保存などの方向で、話が進んでいくのだろうと考えてられます。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、水田委員お願いいたします。

水田委員

皆様の意見をお伺いして、単刀直入に申し上げますと、青山クラブと桜松館は、是非、登録文化財として保存した方が良いのではないかと考えています。

例えば、部分的に改修を行う、あるいは一部を減築するという事を毛頭否定するつもりはないのですが、そのために文化財としての価値を無くしてしまうようなことは避けるべきだと思ひています。

先ほど私は、歴史の重層性が必要だと申し上げましたし、具体的にカフェやショップのようなものも必要ではないかということを発表しまして、その点とちょっと支離滅裂なのかもしれませんが、まず正しく歴史を伝えるというのが、出発点になるだろうと思ひています。

それが無いことには、委員の方が言われているような、未来に伝える、これからのティーンエイジャーに伝えるということは伝わらないと思ひますので、前回の発言と重複しますが、本物を残していく、そこで紡がれた歴史をまずは保存して残していくということが、出発点になるのではないかと考えています。

田中座長

ありがとうございます。続いて、オンラインの福永委員お願いいたします。

福永委員

先程言ったことと多少重なる部分がありますが、30、40年前に呉市の職員であったときに感じていたことで、こう言うと差し障りがあるかもしれませんが、呉市の建物、公共の建物は全て多目的で、あれもこれも兼ね、あれもできるこれもできると作ってきたのではないのでしょうか。多目的と聞くとすごく聞こえが良いですが、結局はすべて中途半端になるのではないかと思います。

今、各施設がどうあるべきかというあり方のことの見解を言っているのですが、各施設がどういう目的を持ち、役割分担することこそが大切ではないかと思えます。

そういう意味では、幸町地区の大きな広い施設を使えるわけですから、それぞれの役割をはっきりさせた上で、お互いを補完しあっていくというやり方は十分できるのではないかと思います。

それからもうひとつ、これは呉市立美術館に在席していた時の経験ですが、当時は青山クラブも音楽隊も呉市の施設ではありませんでしたから、美術館に限られた狭い敷地で、かろうじて呉市の文化施設としての役割を担っているにもかかわらず、市民の方からあれもやれ、これもやれと言われました。しかしそれは、施設の規模や予算、人間的に難しいことでした。例えば、お茶を飲むところがないということで、付け足しのように別館（向かい側）を作り、そこにカフェを入れました。

その場しのぎでやったわけですがけれども、今回は、面として幸町地区を再開発するわけですから、例えば素敵なお店は美術館の中ではなく、他の施設にあっても良いと思うし、先ほど横山委員がおっしゃったように、スタジオのような機能が他の施設の中にあっても良いと思えます。

各施設がはっきりとした目的で、多目的ではなく専門的な役割をはっきりとした形で整理されていることが望ましいと思えます。

最後にもうひとつ、青山クラブと音楽隊の施設は文化財として残すという意見があったのですが、美術館は40年前に作った建物で、そんなに今の建物にこだわらなくても良いのではないかと思います。

私は、美術館の建物は、壊して新しく整備しても良いのではないかと思います。

田中座長

ありがとうございます。続きまして、横山副座長お願いいたします。

横山副座長

小野委員が指摘された、桜松館のホールの話がありましたが、現在の機能として美術館に欠けているところは、そのホール、人が集まる場所です。

前回も申し上げましたが、ワークショップなどをする場所に、水道がないといったことを考えると、機能的には今の美術館と桜松館が合体したようなものがあれば、十分な美術館機能をもっと市民に親しんでもらえるのではないかと考えます。

ただ、先ほど福永委員がおっしゃったように、今まで各館単独で考えていたということは、前回も申し上げましたが、全体としてどうするのかということを考えないといけないというのを強く感じます。

それからもうひとつ、福永委員がおっしゃいましたが、美術館の建物は、40数年前の建物ですので、中には観光で来た方が「ここは由緒ある建物ですか？」とおっしゃる方もおられます。しかし、地方総監部はそうですけれど、ここは

横山副座長	<p>昭和 50 年代の建物ですと答えるくらいです。ただ、雰囲気はすごくいいです。</p> <p>その雰囲気の問題というのかもしれないけれども、場合によっては全部建て直すというのもひとつの考えではある、必ずしも現在の姿を前提としているということではない、ただし、機能はしっかりとしてほしいです。</p> <p>その上で、残す、残さないという議論の中で、最近気になっていることは、青山クラブは、以前は自衛隊の施設ということで、建物の正面に、平成 30 年から呉市が管理していますというプレートが付いています。しかし、そこに写っている写真は今と違います。年配の方とかに聞くと、外見は元々現在の色ではなかったと言われます。</p> <p>2, 3 年前に一般のアンケートを取った時も、青山クラブを残しますか、残さないですかというところに全然議論は無かったと思います。そういったところをそろそろ考えないといけないのではないかという気がして、例えば、美術作品の場合は、基本的には制作された状況に戻すということは可能ですが、建物では単純な話では無いと思います。</p> <p>例えば、お寺などの復元でも、昔の姿に戻すと、長く親しんできたお寺の色とは全然違うということもあるわけです。その辺のことも念頭に、保存するのであればどういったところをどのレベルで考えていくかということも議論していかなければいけないのではないかという気がしています。</p> <p>加茂委員の方で、建物と連動したデザインなど、何か情報などはございますか。あれは、呉市がレンガのイメージを統一して作ったといった話も聞いたりするのですが。</p>
加茂委員	全然知見がございません。
福永委員	<p>青山クラブのあの色は、私が美術館にいる頃に塗り替えられたものです。</p> <p>横山委員がおっしゃったように、周りの景観に合わせてレンガ色に塗ったのだと思います。</p> <p>元の建物の色は、ベージュ色か、もっと落ち着いた色の建物でした。ただ、呉市が中通りなどをレンガ調にした時に、おそらく自衛隊の配慮で濃いレンガ色に塗り替えた記憶があります。</p>
横山副座長	<p>そうすると、少なくとも 30 年以上の時間が経っているということですね。</p> <p>その辺り、水田委員の考えを聞いてみたいと思いますが、いかがでしょうか。</p>
水田委員	<p>青山クラブの方を観察していたのですが、よく見てみるとタイルを剥がして今のペンキ色のモルタルを塗っているのか、それともタイルの上に直接レンガ色のモルタルを塗りつけているのか、それがわかりません。</p> <p>スクラッチタイルは、確かに屋上に残っているのですが、あれを全部剥がしてモルタルを塗ったのであれば、ものすごい工事を行っているはずですね。それを行ったのか、それともあのスクラッチタイルを貼り付けたまま、その上にモルタルを塗っているのか、それがどっちなのかというのが、自分は入念に見たつもりなのですがそこがわかりませんでした。</p> <p>タイルを貼った上にモルタルを塗っていると、正直、メンテナンス的に長く持たないと思います。</p>

水田委員	<p>そうであるからタイルを剥がしてモルタルを塗ったのかというと、それも相当な工事で、大変な工事だと思います。</p> <p>そこがよく分からないので、誰かご存じの方がおられれば、教えていただきたいというのが正直な感想です。</p>
福永委員	<p>今、水田委員がおっしゃったことですが、下地を作らずそのまま塗ったような記憶があります。</p> <p>大工事ではなく、短期間にペンキを塗りましたから、下地を整えずそのまま塗ったのではないのでしょうか。</p>
水田委員	<p>あのような戦前の昭和のスクラッチタイルは、今、どの建物でも剥がれてきたりして危ないです。</p> <p>戦前の建物ですと、落ちてきたら危ないということでメッシュを張るなどして、応急措置をしているところも結構あったりします。</p> <p>そういう点を考えると、モルタルを塗っているというのは大丈夫なのかと思います。</p> <p>もともとスクラッチタイルがあのかの建物の全面に本当に貼られていたのかなと、正直、私は疑っています。</p>
事務局	スクラッチタイルを貼った写真はあります。
水田委員	そうなのですか。
事務局	<p>全面スクラッチタイルで樹脂コーティングのようなモルタルをして、特殊なペンキのイメージで落下防止も兼ねたような工事も行っているのではないかと思いますのですが、こちらとしても建築家ではないので正確なことは分かりません。</p> <p>過去のいろんな資料を見ていると、昭和 56 年に改装工事が行われ、オリーブ色の外装は赤レンガ色の樹脂タイプに置き換えられたとされているのですが、おそらく樹脂タイプではないですね。</p>
水田委員	<p>例えば、桜松館の 1 階のところまで見ていただくと石の目地があります。</p> <p>その上にグレーのモルタルを塗っています。ですから、石の上に直接モルタルを塗っているのかなと思いつつ、これまでの資料を見ながら思っており、それも正直、当時のやり方としては無茶をしているのではないかと思っています。</p>
横山副座長	<p>そういうことを改めて思ったのは、松野委員がおっしゃっていましたがけれども、美術作品の場合は割と小さいですから、判断しやすいのですけれども、少なくとも 30 年以上は今の（青山クラブの）状況があるわけですから、どの時点で市民に親しまれているのかということも考えていかなくてはいけない。全部壊すのはちょっと置いておいて、部分的に残すとか、いろんな意見の中で経済的なことも含めて考えていかないといけないと思います。</p> <p>その辺のことも、この場で議論していく必要があるのではないかという気が</p>

横山副座長

してしまして、申し上げた次第です。

もし自衛隊の中で資料がありましたら、よろしくお願いいたします。

そもそも青山クラブには、ちゃんとした図面が無いところから始まっており、さらに 40 年くらい前の工事の資料が、果たしてあるのかも含め、判断するしかなくなってくると、全部を残していくということに対する責任の取り方というのは、かなり難しいと思います。あと何年、健全に使えるという話になってくると、誰がそこを保証するのか、担保するのかというところはかなり議論をして、詰めていかななくてはいけないのだろうと考えます。

田中座長

ありがとうございます。これでひと通り 2 周、皆様のご意見を伺えたかと思えます。

お話を伺い、私の方でいくつか思ったことをお話しますと、この広い敷地を役割分担していくゾーニングについて、それぞれの場所に対してそれぞれの役割を持たせていくというようなことが重要なのではないかというお話が伺えたと思っています。

それ以外では、機能的な面として、カルチャーサークルですね。文化ホールの機能の一步手前の入り口になるようなところが、この地区の中にあると良いのではないかというお話や、高校生や 10 代の方のための空間、スポーツ関連の場所など、地域性といったところを考える必要があるのではないかというお話をいただけたかと思えます。

もうひとつは、地区全体で見た時、空間を、例えば中の空間を含めてどう配分していくのかというところが、次の段階の議論として必要なところであるということを感じました。

その中で、残していく、残していかないといった議論も、これから必要になっていくのかなと思いますが、そのあたりの冒頭の意見出しは、本日していただけたのかなと思っています。

幸町地区をどのようにしたいのかというところに関しては、皆様の方向性として、そんなに大きなズレは無いと思いました。

先ほど、つなぐという話をしたかと思いますが、空間的なつなぐ、過去と今の人をつなぐ、未来と今の人をつなぐ、人と人をつなぐ、文化と人をつなぐ、そのあたりの大きな方向性に関しては、ある程度皆さん、同じご意見なのかなと思いました。

空間の使い方については、いろいろ議論もあろうかと思えますので、次回に繋げていけたらと思っています。

5 閉会

田中座長

今回は、本日のご意見・ご提案および来週実施予定の先進地視察の振り返りを行いたいと考えております。

また事務局の方で発注されている、青山クラブ・桜松館の建物基礎の調査状況につきまして、現地での調査進捗状況にもよりますが、可能な場合は調査結果の速報として、ご報告をお願いできたらと考えております。

これらの情報を踏まえながら、整備コンセプトの素案をさらに固め、本日皆様に意見出しをしていただいた各施設のあり方や実際の空間、それぞれの場所のあり方について、引き続き検討を進めていくこととしたいと思いますですがよろしいでしょうか。

(異論無し)

田中座長

ありがとうございます。

新原市長より、ひとことお願いできたらと思います。

呉市長

遅れて参りまして申し訳ありません。

どうしても外せない用務がありまして、少しでもみなさまの声を直に聞いておきたいと思い参りました。皆さん、今日はお忙しいところお集まりいただきありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願ひします。

田中座長

ありがとうございます。

事務局

それでは、事務局からの連絡事項として、今後の予定等をご案内させていただきます。

本日は本当にありがとうございました。

先ほど、田中座長からもお話がありましたように、委員の皆様のご意見並びに日程調整を踏まえ、来週8月7日月曜日から8日の火曜日にかけて、東京都内及び群馬県内への先進地視察を行います。

これは主に、どのように施設を活用して改修しているのか、エリアとしてコンセプトを持って取り組んでいるところを見ていただきたいと思います。

委員の皆様におかれましては、ご多用のことと存じますが、ご参加の程よろしくお願ひいたします。

第3回の会議に関しましては、9月の終わりから10月の初旬にかけての開催を予定しています。

2回目の先進地視察の方は、今度は関西方面に行く予定としております。また、委員の皆さんの方からもご意見をいただきながら、10月上旬から中旬にかけて実施したいと考えております。詳細な日程に関しましては、改めて委員の皆様との調整を行いますので、よろしくお願ひいたします。

田中座長

ありがとうございました。以上で、本日の有識者会議は終了といたします。皆様、本日はどうもありがとうございました。